様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ９ 月　 ８ 日現在

機関番号：１６２０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2024
課題番号：１８Ｋ１１９５５

研究課題名（和文）都市計画の遺産的価値継承を狙いとした社会的プレゼンテーション手法の構築

研究課題名（英文）Construction of a social presentation method aimed at succeeding the value of planning heritage

研究代表者
西成　典久（Nishinari, Norihisa）

香川大学・経済学部・教授

研究者番号：９０５５０１１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、我が国の都市計画がこれまでにつくりだしてきた都市空間の遺産的価値を探求し、そうした遺産的価値を市民に対して伝えていく社会的プレゼンテーション手法を実践的に構築し、把握することを目的としている。本研究では「まちの記憶研究会in高松」を起ち上げ、高松を対象とした都市形成史の研究を進めてきた。また、若年層に向けた社会的プレゼンテーション手法検討の一環でイラストを作成し、成果は高松市の歴史資料館やボランティアガイド協会の講演会で発表した。これまでの研究成果をもとに、書籍『高松 海城町の物語』を執筆・出版した。また、「まちの記憶」を題材とした展示会を実施し、一定の成果が得られた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は他都市との比較から高松が有する都市景観上の特徴を把握し、その特徴の表出を都市形成の観点から詳細に分析を試みた。これまで城郭研究のなかでも明確な把握が進まなかった近世期の「海城」に関して、本研究では景観上の観点から「海城」を定義したうえで、その全国的な分布を調査した結果、西日本の湾内に建設された24地区の海城町の所在を明らかにしており、都市計画研究の学術的成果として高く評価できる。また、専門的知見を専門家のみならず、非専門家に向けてイラストや絵図を用いて、例えば講演会や展覧会を通じた社会的プレゼンテーション手法の実践的検討は、今後の地方都市における社会課題解決に対しても貢献できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to explore the heritage values of urban spaces that have been created by urban planning in Japan, and to practically construct and grasp social presentation methods to communicate such heritage values to citizens. In this research, we launched the "Town Memory Research Group in Takamatsu" and have been researching the history of urban formation in Takamatsu. We also created illustrations as part of an investigation into social presentation methods aimed at younger generations, and presented the results at lectures held by the Takamatsu City Historical Museum and the Volunteer Guide Association. Based on the results of the research, I wrote and published a book called "Takamatsu: The Story of Umijiro-machi." I also held an exhibition on the subject of "Memories of the Town," which was a certain success.

研究分野：都市計画・都市デザイン

キーワード：都市デザイン　社会的プレゼンテーション　都市史　都市形成史　シビックプライド　地方都市　瀬戸内海　テリトーリオ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

現在の都市計画では歴史的景観に配慮することが一般化しつつある。だが、そこで「歴史」とされているものは、主として「伝統的」な町並み、もしくは「伝統的」な様式の建物である。その一方で、「近代的」な遺産について考えてみたとき、たしかに近代建築、近代化遺産、土木遺産といったキーワードのもと保存措置が取られているものの、近代的な都市空間、あるいは町並みが保存対象として積極的に採り上げられることは少ない。

本研究課題は「都市計画の遺産的価値継承を狙いとした社会的プレゼンテーション手法の構築」と題し、開始当初の背景として、都市計画によって生み出された連坦する近代的な都市空間の遺産的価値をいかに継承していくか、という背景や問題意識があった。そこで、本研究では「都市計画遺産」の概念的構築とともに、地方都市を対象とした都市空間の遺産的価値継承を狙いとしたプレゼンテーション手法について探求を進めていくこととした。

本研究課題は 2018 年度から開始したが、2020 年度から約 3 年間のコロナ禍となり、当初予定していた海外での都市計画における社会的プレゼンテーション事例の調査は困難な状況となった。また、県外での調査や展示会等の開催についても制限されることとなったため、当初の研究計画を一部変更し、筆者の勤務地である香川県を中心として、都市空間の遺産的価値の探求と継承を狙いとした研究計画とした。

２．研究の目的

本研究は、我が国の都市計画がこれまでにつくりだしてきた都市空間の遺産的価値を探求し、そうした遺産的価値を市民に対して伝えていく手法（本研究では「社会的プレゼンテーション手法」と呼ぶ）を実践的に構築し、把握することを目的としている。

３．研究の方法

初年度となる 2018 年度は、主に高松の都市計画史を対象とした史料調査を実施し、特に、現在の都市空間の基盤となる近世期の都市形成に着目した史料収集を行った。また、社会的プレゼンテーションの手法に関して、連動して研究活動を進めている「パブリック都市計画史の理論的・実践的探究」の一環として企画・実践された「アーバニズム・プレイス展 2018」に参画し、実践的な知見を得ることができた。

2019 年度には、これまで調査・研究を蓄積してきた高松に焦点を当て、研究協力者として高松の出版社と相談を重ね、実験的な社会的プレゼンテーション手法として、子供（小学生）を対象として地域や場所の形成を学べる教育プログラムの検討を進めていくこととした。そのうえで、高松にて関心をもつ方々に声がけし、小学校の先生や行政関係者、建築士、出版関係者をメンバーとする研究会を起ち上げ、高松の都市形成史を対象とした具体的な取り組み内容の検討と実践に取り組み始めた。2020 年 3 月には、小学校の先生や行政関係者、建築士、出版関係者をメンバーとする「まちの歴史から子供と地域をつなぐ研究会」を起ち上げることができた。

2020 年度は当初計画していた海外での都市計画における社会的プレゼンテーション事例の調査はできず、起ち上げた研究会でも実質的な活動に取り組むことが難しい状況にあった。こうした状況下でも、オンラインでの研究会を開催し、研究会の名称を「まちの記憶研究会 in 高松」とした。研究対象地である高松における都市空間の遺産的価値を伝える講演会や教育活動として、市内各所で講演会を実施し、社会的プレゼンテーションの実践に取り組んだ。

「まちの記憶」研究会 in 高松オンライン会議

市内小学校での講演

社会的プレゼンテーションのコンテンツ検討として新たにイラストレーター、デザイナー、ライターの方々に加わってもらい、都市空間の遺産的価値を伝える方法について検討を重ねた。また、高松を対象とした都市形成史の研究を鋭意進め、成果は高松歴史資料館やボランティアガイド協会の講演会で発表した。また、若年層に向けた社会的プレゼンテーションの効果把握を検討するためのイラストを作成し、これまでの研究成果をもとに、2024 年 3 月、書籍『高松 海城町の物語』を執筆・出版した。

2024 年度は都市空間の遺産的価値を伝えていく社会的プレゼンテーションに関するアクションを実施した。具体的には、これまで本研究で取り組んできた「まちの記憶」を体感できるイラストや城下図、名所図会等の大型パネルを作成し、期間限定で市民に向けた展覧会を実施し、その効果検証を行った。

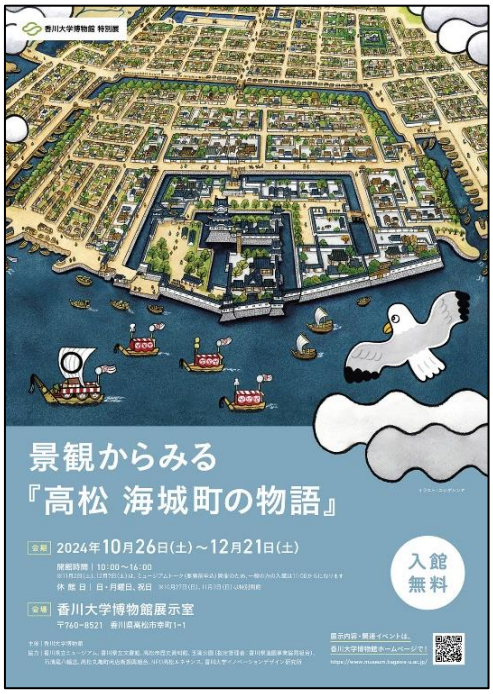
４．研究成果

研究成果として、論文執筆、書籍出版、講演会実施などが挙げられるが、ここでは最終年度の 2024 年度に実施した社会的プレゼンテーション手法の検証として、市民に向けた展覧会を中心にその成果を記載していく。

本研究では、社会的プレゼンテーション手法の有効性を把握するため、香川大学博物館を活用した市民向け展覧会を実施した。以下、開催内容を整理する。

テ ー マ：「景観からみる『高松 海城町の物語』」
会　　期：2024 年 10 月 26 日（土）～12 月 21 日（土）　（43 日間）
開館時間：10:00～16:00
入 館 料：無料
会　　場：香川大学博物館展示室（高松市幸町 1-1）
入場者数：1,316 名
内　　容：未来につなぐ「まちの記憶」

瀬戸内海に面する香川の県庁所在地・高松、かつてこの地には日本を代表する特　別な海城がありました。近世期に築かれた海城のなかでも、最初期で最大規模をほこる高松城、そしてその城とともに発展してきた城下町。現代、そして未来の香川・高松を考えるうえで見過ごすことができない「まちの記憶」。本特別展では「景観からみる『高松 海城町の物語』」と題して、私たちが失いかけている「まちの記憶」を見直し、まちの形成史から香川・高松のシビックプライド醸成を目指す。



博物館特別展のチラシ表

博物館特別展のチラシ表

博物館特別展の様子

博物館特別展ミュージアムトーク①

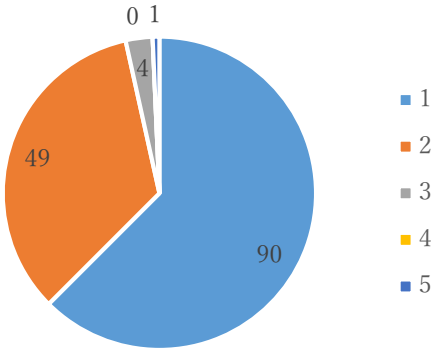
博物館特別展ミュージアムトーク②

博物館特別展市民講演会

期間は 2024 年 10 月から 12 月、高松を対象とした絵図、写真、イラストなど計 36 点、特別展「景観からみる『高松 海城町の物語』」と題する展覧会を開催したところ、1,316 名の来場者数をえた。1 日あたりに換算すると約 30 人の来場者となり、同館にて同規模の展覧会を実施した中では、最多となる来場者数となった。

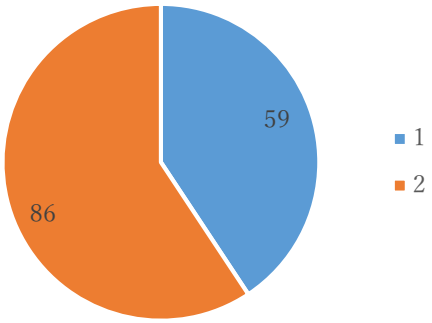
また、展覧会来場者に対して任意回答調査でアンケートを実施し、都市空間の遺産的価値継承に関して、特にシビックプライド醸成との関連性も含めた成果把握を試みた。以下、その成果の一部を示す。（本アンケート調査の詳細については、別稿に譲る。）

d. 高松や香川の成り立ちについて、来場される前より理解が進みましたか?



1：あてはまる　2：ややあてはまる　3：どちらともいえない
4：あまりあてはまらない　5：あてはまらい

g. 本展覧会を通じて、香川・高松の印象(イメージ)は変わりましたか?



1：特に変わらない　2：変わった

回答総数は 145 名で、回答者の約 75%は高松市内在住、男性 60%女性 40%、年齢は 10 歳代から 70 歳代以上まで多様であった。展覧会を通じて「高松や香川の成り立ちについて、来場される前より理解が進みましたか」という質問に対して、「あてはまる」62%「ややあてはまる」34%で、合わせると 96%の回答者が理解が進んだと回答した。また、「本展覧会を通じて、香川・高松の印象は変わりましたか」という質問に、「変わった」59%で回答者の約 6 割が香川・高松の印象が変わったと回答した。以上、本研究により、都市空間の遺産的価値を伝える社会的プレゼンテーションとして、「まちの記憶」を題材とした展示会を実施し、一定の成果が得られたと考えている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 西成典久	４．巻 101号
２．論文標題 高松城と高松港	５．発行年 2024年
３．雑誌名 港湾	６．最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 西成典久	４．巻 449
２．論文標題 海城町・高松城下の都市デザイン ： 格子状街路網と領域性に着目して	５．発行年 2024年
３．雑誌名 調査月報　百十四経済研究所	６．最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 西成典久	４．巻 第5号
２．論文標題 高松城の復元、その後の周辺まちづくりに向けて	５．発行年 2019年
３．雑誌名 市民のつどい2019	６．最初と最後の頁 88-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計17件（うち招待講演　17件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 「まちの記憶」と「まちのデザイン」 ～社会科教育から『高松 海城町の物語』を読む～
３．学会等名 香川県高校地歴公民研究会（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 歴史から見えてくる高松のおもしろさ
３．学会等名 高松市まちづくり学校講演会（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 景観からみる『高松 海城町の物語』
３．学会等名 高松市歴史資料館講演会（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 地域共生社会の実現に向けて ～地域の特性を知り 地域の生活を考える～
３．学会等名 第39回香川県看護学会招待講演（招待講演）
４．発表年 2024年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 「まちの記憶」を未来につなげる ～中学校社会科教育と『高松 海城町の物語』～
３．学会等名 香川県中学校社会科研究会（招待講演）
４．発表年 2025年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 10年後の瀬戸内、香川、四国の未来像
３．学会等名 海洋科学の未来とレジリエンスサイエンスシンポジウム（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 海城を活かした高松城周辺のまちづくり
３．学会等名 高松青年会議所チャレンジユニバーシティ事業（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 人口に頼らない景観まちづくり ―県内ウォーカブル事情最前線―
３．学会等名 第22回美しい景観づくり研究会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 都市デザインからみる西讃エリア
３．学会等名 第8回地域デザイン学会瀬戸内フォーラム（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 ブラタモリからみる海城町・高松のまちづくり
３．学会等名 高松市文化財保護協会「市民文化財教室」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 地方のまちなか再生をめぐる分野横断の必要性と課題
３．学会等名 日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 高松・海城町としてのオリジナリティ
３．学会等名 高松市歴史資料館「讃岐村塾歴史講座」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 なぜ高松に巨大な海城がつくられたのか
３．学会等名 高松市ボランティアガイド協会講演会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 魅力にあふれ、人が輝く創造都市へ　～海城町「高松」の魅力を開放するために～
３．学会等名 高松市新規採用職員研修（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 海城町・高松のこれまでとこれから
３．学会等名 高松ボランティアガイド協会講演会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 小学校との連携に向けた都市計画史教育試論
３．学会等名 都市計画遺産研究会（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 西成典久
２．発表標題 海城町・高松のなりたちから未来のまちを考える
３．学会等名 香川大学教育学部付属小学校3年生授業（招待講演）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計1件

１．著者名 西成 典久	４．発行年 2024年
２．出版社 瀬戸内人	５．総ページ数 176
３．書名 高松 海城町の物語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関